

# ハート・オブ・ゴールド



vol.22

2009年12月25日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局  
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川872-2  
T&F 086-284-9700  
メール:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



ハーフマラソンスタート

## 第14回アンコールワット国際ハーフマラソン2009

今年のAWHM参加者は、前大会を大きく上回る3,490名となりました。会場は未明から多くの参加者、観衆で溢れました。6時20分、車椅子ハーフマラソンのランナースタートに続いて、ハーフマラソン男/女子、10km男/女子/義足、5km女子、3kmファミリーのランナーたちがそれぞれスタートしていきました。

10年連続して参加されたタレントの森脇健児さんは、笑顔でゴールされ、有森代表から来年の大会の誘いに快くうなずかれていました。また、今年も有森賞として、ハーフマラソン男子、義足男子より1名ずつカンボジア人ランナーをかすみがうらマラソン大会に招聘する予定です。

プレイベントは、ウォーキング (HG主催)、バイクレース (VFI主催)、前夜祭を5日 (土) に開催

アンコールワット・ウォーキングにも、これまで以上の多くの子どもたちが集まり、ペアレントの方々をはじめ、スタディツアー参加の方々やウォーキング。

レクリエーションでは、ボール送りやしっぽとりゲームなどを楽しみました。また、それぞれの団体には贈り物をさしあげ、子ども達は終始笑顔の時間を過ごせたようです。



21km 車椅子の表彰



レクリエーション風景

主催：カンボジアオリンピック委員会 (NOCC)、カンボジア陸上競技連盟 (Khmer AAF)

主管：カンボジア陸上競技連盟 (Khmer AAF)

運営：アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会 (AMC)

運営協力：NPO/NGO ハート・オブ・ゴールド、日本医師ジョーグーズ連盟

協賛：コニシ株式会社、ステファニー化粧品、CANBREW LDT

※参加ランナーの方々の写真は、[marathon-photos.com](http://marathon-photos.com) より購入いただけます。

**AWHM 2010は、2010年12月5日 (日) 開催です!**

# 『カンボジア体育の新旧交代』

JICA プロジェクトマネージャー 山口 拓



先の通信に記載した「カンボジア体育の夜明け」でご紹介したように、当会はカンボジア小学校の体育科教育支援を実施しています。現在は、教育省行政官から選抜、育成されたNT（ナショナルトレーナー）による「指導会の実施」、「モデル校のモニタリング調査」と「フォローアップ指導」を行っており、最終的にモデル校の教員がブロック州の教員を招いた公開授業を行うことになっています。

これまでカンボジアの小学校体育では、運動や訓練に重きを置き、スウェーデン体操に似たカンボジア体操と集団行動のみが行われていました。日本では、1913年からスウェーデン体操が学校体操教授要日として発布され、1941年の国民学校発足までの約30年間に渡って行われていましたが、その後、富国強兵の体錬を経て、戦後のアメリカの占領政策の元で、現在の体育科教育に至っています。すなわち、これまでのカンボジアは、戦前までの日本と同様の状態であると言えます。

体育授業を行うには、教育省、地方教育局、学校、教員が一体となって、①授業時間を確保して計画的に指導する為の「時間的制約」、②運動する場所や体育施設を用

意して安全に指導する為の「空間的制約」、③様々な運動を多くのヒトと関わりながら行う為の道具や教具といった「物質的制約」、④国、地方、学校などで情報を共有し、開発していくための「ネットワーク的制約」、⑤それらに携わる全ての人の成長を促す為の仕組みを含めた「人的制約」をクリアにして行かなくてはなりません。

この様に、ただでさえ難しい条件が整っているにも拘らず、これまで現代体育を見たことも聞いたこともない人達が指導を受けて習得する難しさは、支援する側にとっても、支援される側にとっても、想像以上の苦難を強いられます。

しかし、こうした弱みを持ちながら、最近では、全ての当事者による熱心な活動が実り、少しずつ成果を出し始めています。NTはこれまで以上の奮闘を見せ、地方教育局員の効果的な後方支援を受けながら学校長が積極的に調整し、体育授業を実施する体制が整いつつあります。モデル校の教員等は自尊心を高め、自ら体育教材を研究し始めています。その結果、子ども達は、楽しみながら授業に参加して1) 健全な態度を育成し、2) 運動や健康の知識を高め、3) 身体能力を向上させ、4) 協力し合う喜びを覚え始めています。

会員の皆様。どうか、これからもカンボジア体育の行く末を見守って下さい。

## 「岡山県ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業」 研修員フン・ボレイ氏の研修が無事修了しました

日本での研修期間中、体育を中心に多くのことを学びました。日本の習慣も学び、カンボジアとの違いを多く知りました。研修内容は、どれもとても興味深く、充実した結果を得ることができました。ありがとうございました。

小学校をはじめ、中学校、高等学校と大学で研修を受け、先生方も大変親切にしてくださいました。また、通訳の方がボランティアとしてご尽力いただいていることを知り、驚きとともに感謝の気持ちでいっぱいになりました。多くの方のおかげで、私の研修は順調に、そして無事終了することができました。

生涯忘れる事のないすばらしい経験をする機会を与えていただき、重ねてお礼を申し上げます。帰国後は、日本で得た素晴らしい体育の知識、日本の良さを私の同僚や生徒をはじめカンボジアの人々に伝え、この美しい国のように、子どもたちの体育教育の向上、発展の為に学んだことを活かしていきます。

(フン・ボレイ)

研修受入機関：岡山県教育庁保健体育課、岡山県スポーツ振興課、NPO きよね夢てらす、清音小学校、岡山学芸館高校、岡山市立岡北中学校、同福鳥小学校、同牧石小学校、岡山大学教育学部保健体育講座、OSK スポーツクラブ  
※研修をご支援いただいた多くの皆様に御礼申し上げます。

## カンボジア王国小学校保健科教育支援事業

「平成20年度国際ボランティア貯金寄付金の配分による事業」として、平成21年4月から平成22年3月までの1年間、スバイリエン州3モデル校と教員育成校を対象に本事業を展開しています。

### 「第1回教員育成講習会・教育省/県教育局担当官育成講習会」

8日間の教育省/県教育局担当官育成講習会には、4名の担当官（PT）と9名の教育省職員が参加しました。教育省保健科指導書の概要説明などの後、4名の担当官が他の参加者を児童にみたくて模擬授業を行いました。模擬授業は手洗いや歯磨きのデモンストレーション、交通规则や栄養バランスを学ぶロールプレイなど、参加者一同楽しく学ぶという授業に取り組みました。

事業の柱となる2回の教員育成講習会の第1回は、8月19～22日の4日間、校長4名を含むモデル校の教員44名の参加者を対象に実施しました。非常に暑い日が続きましたが参加者の熱心な取り組みにスタッフ一同これまでの苦労が報われた思いがしました。2日目の専門家による模擬授業では、手洗いや栄養バランス、ケガ/病気の予防を取り上げました。くわえて、岡山大 学準教授の近藤先生のゼミ生5名もボランティアとして参加し、身体の器官や働きをわかりやすく教えてくれました。専門家の実際に手を洗ってみせ、児童が楽しみながら手洗いが行えるようリズムをつけた手洗いイラストやクイズ



などに、始めは戸惑いをみせていた参加教員も次第に楽しみ学んだように思われます。3日目に各学年の教員が1つのグループとなり、指導案を作成し教材をつくり模擬授業の準備をしました。活発な話し合いと、画用紙に絵を描き模造紙でポスターを作るなど、充実したグループワークが各学年で行われました。4日目の模擬授業は前日の指導案を代表者が授業しました。専門家の講義を踏襲しつつ、各グループでそれぞれのオリジナリティが少しずつ加わり、期待以上の授業が実施されました。専門家の先生からは、参加教員の熱心さと吸収力、理解力に驚き、今後、実際に各参加者が教室に戻ってどのように授業をしていかれるかを楽しみにしているという言葉いただきました。

第2回教員育成講習会のため、12月26日より1月3日まで、日本から専門家5名を派遣予定です。

## カモン カンボジア

12月4日、職業訓練の一環として美容師の加門先生にモロッポ・カフェ2階にて美容教室を開いていただきました。

参加した子どもたちは照れながらも興味津々に加門先生の熟練の手さばきに目を輝かせて見入っていました。将来の夢が美容師という女の子も多いようです。



## HG むつみ日本語教室

12月4日有森代表、スポンサーの方々と訪問「つばき」組の授業を参観

「つばき」組は本年度入学したばかりの31名の生徒です。先輩が先生となり（一期留学生のスライミーさん他）基本的な「あいう…」の発声練習を中心にした授業を行なった後、歌のプレゼントをしてくれました。代表からは、新しい「ハート・オブ・ゴールド」の歌を披露、来年訪問時には皆で歌うことを約束しました。

また、卒業生である日本に留学中のゲェ・チョンパーさんは、11月29日外国人による日本語弁論大会で「和の心」と題して和太鼓部の活動で得た日本人の心を語り、審査員特別賞を獲得しました。



## 第4回HGチャリティ・ディナーが 華やかに開催されました

「初対面」

五十嵐 真起



11月27日（金）、東京アメリカン・クラブにて。ミューアさんのミニライブ、カンボジアの伝等舞踊「アプサラ・ダンス」、そしてチャリティ・オークション&プレゼント抽選会には、主旨に賛同していただいたアスリート、著名人の方からの品が提供されました。主催：HGチャリティ・ディナー実行委員会事務局 特別協力：アミジョン、JSMコンサルティングロダンクラブ ※今年のチャリティ・ディナーより寄付金3,498,477円をいただきました。ありがとうございました。

### NCCCより サオピアさん(15) & レケナさん(14) が来日、アプサラダンスを披露

今回の来日は、ダンス指導者のサオム・ソサウリー氏が同行。チャリティ・ディナーや順天中学・高校、浦安ロータリークラブの皆様を前に、クメール伝等舞踊の衣装を身に纏い、緊張しながらも堂々と日頃の練習の成果を披露しました。翌日は、ハート・ペアレントの五十嵐さんらとともに、東京ディズニールランドへ。まさに夢の国で楽しい1日を過ごしました。



### NCCC だより

12月5日、ツアー参加者がNCCCを訪問。子どもたちが歓迎のダンスを披露。1年ぶりに見た子どもたちは、ひとまわり大きく成長していました。

9月よりセンターの子どもたちの内10名がHGむつみ日本語教室に入りました。

来年は、日本語で交流できるのも夢ではありません。

11月28日秋晴れの土曜日。いよいよサオピアとの初対面の日がやってきました。初対面が日本になるとは夢にも思っていませんでした。最初にどのような声をかけたらよいのか等々、頭では考えるもののなかなかイメージがわかりません。せっかく日本に来てくれるのだから、彼女の人生にとって記念となるような贈り物ができたら・・・と思い、田代さんに相談しながら、プレゼント（筆箱）を準備したりと、つい最近まで想像ができなかったわくわくした時間をすごしました。

サオピアと出会って約9年。あどけない子供だったサオピアが、少女に成長し、子供のころあまり得意ではないと言っていたアプサラダンス披露のため選ばれて日本に来るということに胸がつまる思いでした。

サオピアの手紙には「わたしはセンターにきて幸せです。ここでは十分に食べることができし、安全に眠ることができます。もし、ここに来なかったら私はストリートチルドレンになっていたことでしょう」といつも書かれています。

私達が当たり前とと思っていた、充分食べ、安全に眠ることが幸せだとティーンエイジャーが感じるということに衝撃を感じます。

ディズニールランドでの対面は、最初はよそよそしい雰囲気がありましたが、正式にサオピアのパパとママだと伝えると、9年間いや16年間の思いをすべてぶつけるかのように抱きついてきて、肌の感覚を確かめるかのように思いっきり抱きしめたり、手をつないだりと、私が母に対してしたことのないようなことをしてくれました。そんなサオピアは愛おしい本当の子供のようでした。

サオピアからたくさんのフレッシュな感性をいただきました。

サオピアの私たちに対する最初の質問は、パパはどんな仕事をしているのか、そして、子供はいるのか。ということでした。私たち夫婦は結婚12年になりますが子供はおらず、子供はサオピアだけであると告げると、満面の笑みを浮かべていました。サオピア（おそらく全ての子供たちも）は自分の環境が恵まれていることを十分に理解しています。

しかし、残念ながら愛情を独占するということは難しい環境であると思います。

ひとりの子供の成長において、必要な資金を提供する方、実際に現地でささえてくださる方、たくさんの人々の協力があります。

全てが揃わなければ難しいものです。その中で、ハートペアレントというのは、子供たちに自分だけを見守ってくれる存在があるという後ろ盾になる存在だと実感しました。「できることを、できる人が・・・」というコンセプトの意味がよくわかった一日でもありました。

彼女たちは本当にしっかり躰けられていて、写真1枚撮った後にも「ありがとうございます。」ときれいな日本語であいさつをしていたことが印象的でした。

サオピアはこれから自立に向けて新たなステップに向かう時期を迎えています。これからも末長くサオピアを見守っていきたいと思います。

## 活動便り

(2009 年後半)

### 第3回 吹田中の島チャリティ・ラン

9月20日(日) 中の島公園～神崎川河川敷特設コース



今年から大会名を改めたものの、内容は昨年と同様、3時間走と小学生から参加できるゲームリレーが行われました。

当日は、日差しも強く暑い中、大会スタッフを含め400名近い人が参加、親子、夫婦、友達同士等いつもの楽しい大会となりました。その中でも特に、清水玲子(ヴァイオリン奏者)が大会直前に大病から復帰され、生きる力にと3時間耐久演奏に挑戦され、本部前はヴァイオリンの生演奏につつまれ、ランナーを励ました。

### 当然！この冬も登ります！

#### 第4回 HG チャリティ耐寒登山

会員親睦登山です。自然(マイナスイオン)を満喫してみませんか？

大阪で唯一樹氷(雪があれば)が綺麗で有名な金剛山に登りましょう。ご友人、ご家族等会員以外の方の参加大歓迎！！

日時 2月14日(日曜日) 小雨、降雪決行  
 集合時間 10時 10時30分出发予定  
 参加費 ¥500 (すべてチャリティとさせていただきます)  
 集合場所 金剛山登山口徒歩2分、さわやかトイレ前駐車場  
 持ち物 アイゼン(積雪時)、飲料水、着替え、弁当、おやつetc  
 集合場所への交通機関

南海電車利用 南海高野線、難波駅～河内長野駅、バス、金剛山ロープウェイ行き 金剛登山口下車。  
 近鉄電車利用 南大阪線、近鉄阿倍野橋～古市～富田林、バス、千早線 金剛登山口下車。

※当日の怪我、疾病につきましては個人の責任に於いて参加して下さい。

※参加確認は致しません、気軽に参加下さい。

現地集合、現地解散！！

※参加希望の方、日頃から歩いておいて下さいね！！

※問い合わせ/連絡事項は、西日本ボランティアリーダー：武藤まで。katsubou9.11@docomo.ne.jp でのみ対応

- 7/21 岡山県技術研修員来日(-11月末)
- 7/29 「2009日本ドラゴンボート選手権」
- 8/4 有森講演「天竜峡夏期大学」(長野・飯田クラブ)
- 8/7 「全国国公立幼稚園PTA全国大会岡山大会」HG 出展
- 8/29 シンポジウム  
「世界に羽ばたく日本のスポーツ」(広島)
- 9/20 「第3回吹田中の島チャリティ・ラン」(大阪)
- 9/27 「第15回浦安チャリティ・ウォーク & フェスティバル」(浦安)
- 10/18 「ヒロシマ MIKAN マラソン」(広島・江田島)
- 10/25 「全労災フェスタ岡山」HG 出展
- 11/1 シンポジウム  
「アジアにおける義肢装具の向上を目指して」山口パネリスト  
(兵庫・第25回日本義肢装具学会学術大会)
- 11/1 チャリティ・ゴルフ (岡山)
- 11/8 シンポジウム「Footsteps for Tomorrow」  
田代パネリスト (東京)
- 11/27 「HG チャリティ・ディナー」(東京)
- 11/29 「第34回河口湖マラソン大会」(山梨)
- 12/3 AWHM/ スタディ・ツアー出発  
(成田・関西・岡山)
- 12/5 AWHM/ ウォーキング・前夜祭
- 12/6 AWHM2009

#### 2010 年前半 活動予定

1/24	有森講演 (飯田市上郷公民館)
2/12	HG10周年誌発行記念 活動報告会、交流会
3/7	2010年第30回篠山ABCマラソン大会
4/18	第20回かすみがうらマラソン
4/25	PARACUP 2010
6月末	HG 理事会、総会、交流会

#### インターン紹介

はじめまして。5月19日より、インターンとしてお世話になっております森祐子と申します。岡山県岡山市立御津中学校の教員ですが、公務員の自己啓発等休業制度を利用、退職し、国際協力、国際交流について学ぶことを目的にアジア事務所のお手伝いをさせていただきます。

こちらへ来て半年が過ぎました。毎日、驚きと発見の連続です。また、多くの方々との出会いは世界の広さを実感させてくれます。現場でしかわからないことをたくさん吸収しながら、カンボジアと日本の子供たちの交流のお手伝いができたらと考えています。どうぞよろしく願いいたします。